



米商進路だより

令和5年2月22日発行
山形県立米沢商業高等学校
進路指導部（第31号）

《 「当たり前」を変えるために、疑問を持ち続ける！ 》

令和5年2月21日現在の3年生の進路状況です。現在も合格内定をいただくために進学試験および就職試験にチャレンジしています。2月17日（金）には進路指導部と各学年の情報共有会を実施し令和4年度の反省を踏まえ、令和5年度に向けて改善点を整理するための話し合いを行いました。アフターコロナを見据え、次年度に向けて前例踏襲とならないような施策が必要だと考えています。

就職	大学	短大	専門学校	公務員	進路内定
41	19	6	32	0	98

さて、先日就職内定者の皆さんに対して研修を実施しました。社会人になると同世代という横の繋がりから脱却し、異世代と一緒に働くという縦社会の生活が始まります。4月は慌ただしさに追われていつの間にか過ぎ去り、その間に少しずつ疲れがたまって、5月の連休明け頃、つらさの波がどっときてしまう人がいるのです。そこで、その不安と緊張を和らげるために講話や若手社員と懇談をしたのです。

企業に入社すれば、新人研修で上司や外部講師の皆様から社会人としての心構えを身につける機会があります。ただし、全ての企業の研修制度が充実している訳ではなく、「これぐらい常識でしょう」と言われてしまい、誰も教えてくれない実態があるのも現実です。「会社の常識」が「社会の常識」ではなく、常に疑問を持ち続けて同僚や先輩に相談することがはじめの一步です。

「働き方改革」という言葉が定着してきました。企業は変革期にあり、これまでの常識が通用しないとも言われています。入社後企業の「当たり前」に適応しつつ、でもその「当たり前」がすべてではないという視点と、いつか自分がそれを変えていくんだという強い思いを持ち続けることは大切なことなのです。“疑問”を解決する方策を考え、実行する勇気と決断が求められているのもZ世代の役目です。

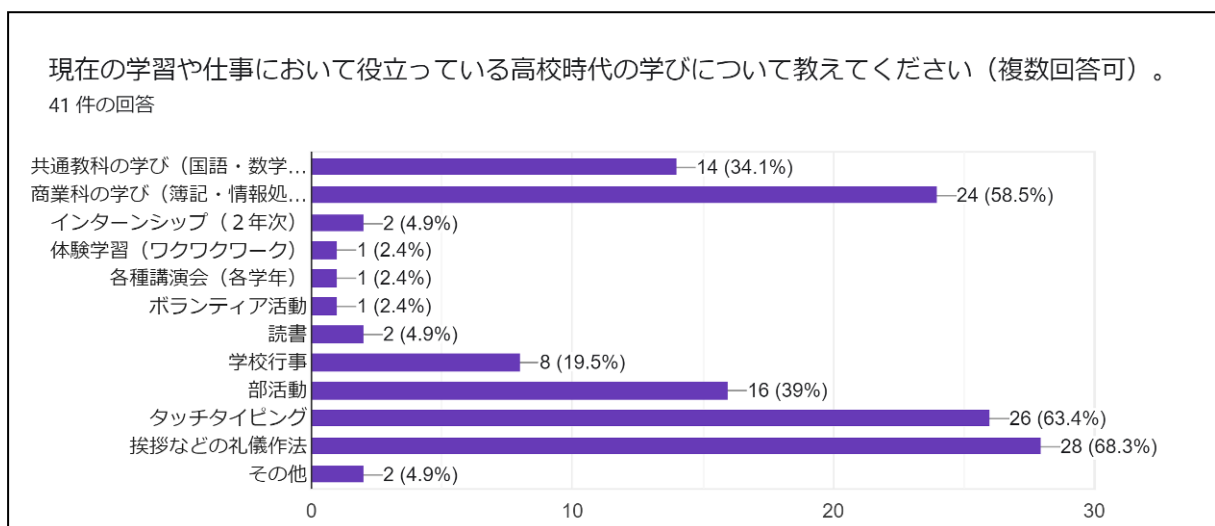
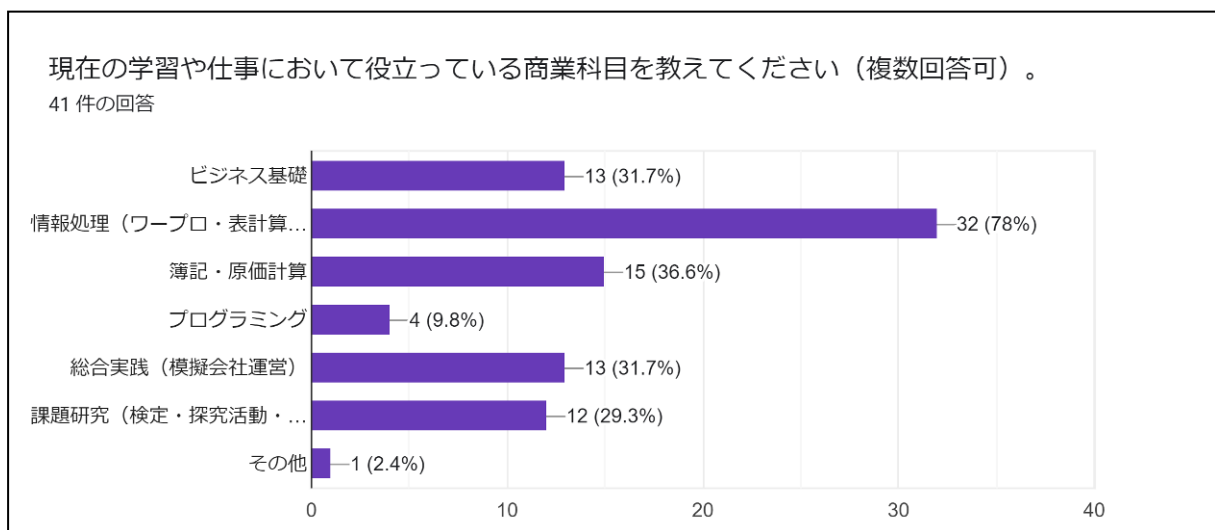
進路が決まった皆さんは、高校生としてやるべきことがあります。それは、登校日には学校に来て先生方や仲間との会話を大切にして、コロナでできなかった青春を味わうことです。私が仕事をする上で役立っているのは、高校時代の仲間との絆であり、友の頑張りが心の支えになっていると言っても過言ではないからです。高校時代に一生続く“友”を探すことは人生には必要なことかもしれません。

期日	曜日	学校行事	担当者
3月15日	水	1・2年生作文講座	外部講師
3月20日	月	先輩からのメッセージ	本校卒業生
3月23日	木	企業との懇談会	各企業
3月中		2年生 SPI 対策問題配付	

《 卒業生の声 其の1 》

昨年、本校卒業生（令和2年～令和4年の3年間）に対して、アンケート調査を実施しました。高校時代の学びが就職先や進学先で、どの程度活かされているかを知ることが目的としています。時間の経過とともに、世相に反映した力が求められる時代となり、新たな発想力や創造力を必要としているのも事実です。そこで、商業教育に必要なことを「卒業生の声」として実態を調査したのです。

不易流行（ふえきりゅうこう）という言葉を知っていますか。「いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと」と辞書には書かれています。つまり、商業教育で変化しないものは「簿記」であり、常に新しく変わるものは「情報処理」や「課題研究における探究活動の在り方」です。是非、参考にしてみてください。



《 お知らせ（学習の成果） 》

令和5年2月20日（月）に本校で販売された「べにばないちご大福」ですが、限定販売の100個は10分で売り切れしました。令和5年2月25日（土）の午後0時からさくらんぼテレビの「山形 CHOICE」で放映され、同日から松島屋菓子店で3日間の限定販売が決定いたしました。1個240円（税込）の販売価格であり、多くの皆様にお買い求めいただきたいと思っています。